

2019 年度 研究業績一覧

池内 ますみ (生活未来科食物栄養コース教授)

学会発表：関西地区の一般家庭における煮物調理の実態調査；日本調理科学会大会令和元年度研究発表要旨集 p.37 令和 1.8 (2019) 共同

島村 知歩 (生活未来科食物栄養コース教授)

研究報告：奈良佐保短期大学の近辺に存在する茶に関係する史跡(8)：「村是」に見られる奈良市域の茶業動向；奈良佐保短期大学研究紀要第 27 号 pp.51-58 令和 2.3 (2020) 共著

学会発表：奈良県の家庭料理 副菜の特徴：野菜料理を中心に；日本調理科学会令和元年度大会研究発表要旨集 p.222 令和 1.8 (2019) 共同

戸田 信聡 (生活未来科ビジネスキャリアコース講師)

学会発表：食品メーカーX 社におけるリーダーのダブル・ループ学習；経営行動科学学会第 22 回年次大会 令和 1.11 (2019) 単独

学会発表：リーダーシップの持論による企業内人材育成；人材育成学会第 17 回年次大会 令和 1.12 (2019) 単独

三浦 さつき (生活未来科特任教授)

学会発表：関西地区の一般家庭における煮物調理の実態調査；日本調理科学会大会令和元年度研究発表要旨集 p.37 令和 1.8 (2019) 共同

学会発表：奈良県の家庭料理 副菜の特徴：野菜料理を中心に；日本調理科学会令和元年度大会研究発表要旨集 p.222 令和 1.8 (2019) 共同

森永 夕美 (生活未来科生活福祉コース教授)

著書：介護実習サポートブック：実習を乗り切るための 40 講；看護の科学社 pp.13-14, 31-34, 67-70, 86-89, 125-128 令和 1.8 (2019) 共著

研究報告：実習指導者と養成校教員との連携方法の試み：実習指導者に対して授業参観を実施した結果からの報告；奈良佐保短期大学研究紀要第 27 号 pp.59-66 令和 2.3 (2020) 単著

加藤 慎一 (地域こども学科講師)

学術論文：教師をめざす学生における数学的コミュニケーション能力の測定に向けた評価枠組みの構築—数量の関係を表す絵や図、式、線分図に焦点をあてて—；大谷大学初等教育学会研究紀要第 2 号 掲載予定 令和 2.3 (2020) 共著

研究報告：教師をめざす学生における数学的な見方・考え方をはぐくむプログラム開発に向けた試み；奈良佐保短期大学研究紀要第 27 号 pp.23-30 令和 2.3 (2020) 単著

学会発表：関数的な見方・考え方のよさが分かる活動デザインの探究過程：教師をめざす学生の探究過程における思考の反覆に光をあてて；日本科学教育学会年会論文集 43 pp.636-639 令和 1.8 (2019) 共同

学会発表：数学教師をめざす聴覚障害学生における学習者の言語を媒介とした活動デザインの探究過程：思考の反覆による活動デザインに光をあてて；日本特殊教育学会第 57 回大会プログラム集・発表論文集 p.P13-03 令和 1.9 (2019) 共同

高城 大 (地域こども学科講師)

学術論文：ソーシャルワーク実践における権力に関する考察；人間福祉学会誌 第 18 巻 2 号 pp.49-55 平成 31.4 (2019) 単著

多田 純一（地域こども学科講師）

- 学術論文：明治期における日本人によるショパン作品の演奏曲および演奏形態の変化；人間科学：常磐大学人間科学部紀要 第37巻1号 pp.15-30 令和1.9（2019）共著
- 研究報告：幼稚園教諭に求められるピアノ弾き歌いの技術とその指導法に関する一考察：幼稚園実習第2段階における課題を分析して；奈良佐保短期大学研究紀要第27号 pp.31-39 令和2.3（2020）単著
- 研究報告：奈良佐保短期大学における音楽教育関連科目のカリキュラムに関する一考察（2）：保育者および小学校教員養成機関におけるピアノ・グレード曲の改訂について；奈良佐保短期大学研究紀要第27号 pp.41-50 令和2.3（2020）共著
- その他（コラム）：「日本におけるショパン受容」展覧会公式カタログ『ショパンー200年の肖像』；求龍堂 令和1.10（2019）共著
- その他（ライナーノーツ）：CD 宮谷理香／ショパン：ノクターン Vol.1 オクタヴィア・レコード 令和1.12（2019）単著
- その他（教材）：平成31年度教員免許状更新講習会「こどもの音楽表現を支える技術」テキスト 令和1.8（2019）共著

西岡由郎（地域こども学科特任教授）

- 著書：小学校国語科言葉による見方・考え方を働かせる「読むこと」の授業づくり：思考力・想像力・基礎力をはぐくみ「深い学び」を実現する；明治図書出版 pp.96-97 令和1.9（2019）共著
- 研究報告：読解力の質的向上につなげる国語科の学習改善：「深い理解」を実現する「対話的な学び」の在り方；全国小学校国語研究所『第11次研究発表資料』 pp.18-21 令和1.10（2019）共著

西薊有加利（地域こども学科助教）

- 学会発表：〈逗子もの〉における作品舞台と幻想；第71回泉鏡花研究会大会 令和1.7（2019）単独

別所 崇（地域こども学科講師）

- 著書：子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門；ミネルヴァ書房 p.118 令和1.5（2019）共著

宮川 久美（地域こども学科教授）

- 学術論文：正倉院文書の訓読と注釈 月借錢解編 第十分冊；奈良佐保短期大学研究紀要第27号 pp.1-46 令和2.3（2020）単著

安永 龍子（地域子ども学科教授）

- 学会発表：介護老人福祉施設における身体的負担軽減のための福祉用具導入について；第78回公衆衛生学会総会 令和1.10（2019）単独

「奈良佐保短期大学研究紀要」投稿規程

制 定：平成23年7月14日

最近改正：平成27年4月 1日

(投稿者)

第1条 投稿者は次の者とする。

- 一 奈良佐保短期大学の教職員（非常勤教員を含む）
- 二 奈良佐保短期大学教職員（非常勤教員を含む）を共著者とする研究分担者
- 三 図書・学術委員会（以下「委員会」という。）が認めた者

(種類)

第2条 投稿原稿の種類は次のとおりとする。

- 一 総説 ある主題に関し、研究・調査論文を総括・解説したもの。
- 二 論文 研究・調査に関する論文で、独創的な内容あるいは新しい事実を含むもの。
- 三 研究ノート 論文に準ずる内容であって、独創的な内容あるいは新しい事実を含むが、論文とするには、さらなる研究・調査が必要とされるもの。
- 四 研究報告 事例として報告するに値するもの。
- 五 資料 研究・調査あるいは業務上の成果で、記録にとどめる価値のあるもの。
- 六 その他 上記にあてはまらないもの。

2 前項の原稿（以下「論文等」という。）は、未発表かつ他誌等に投稿していないものに限る。

3 第1項第一号の「総説」は、原則として委員会の依頼に基づいて執筆されるものとし、投稿の場合は、原稿執筆前に委員会の審査を必要とする。

第3条 投稿者は、掲載された論文等を委員会が電子化及び公開することを承諾するものとする。

(査読)

第4条 投稿原稿はすべて査読を行う。委員会は論文等の分野及び内容等を考慮し、学内から一名以上の査読者を選定する。ただし、学内に適当な査読者がいない場合は、学外研究者（本学非常勤教員を含む）から査読者を選定する。

2 第2条第1項第二号及び第三号について、委員会は論文の分野及び内容等を考慮し、学外研究者（本学非常勤教員を含む）から外部査読者を一名以上選定する。

3 学長は、第1項及び第2項の査読者に、論文等の査読を依頼する。

4 第1項及び第2項の学外研究者による査読については、謝金を支払うものとする。

5 査読の評価判定並びに評価指針については別に定める。

6 論文等の著者は、査読の判定に対し、回答書を提出しなければならない。

7 論文等の著者は、査読の判定に対し、意見を申し立てることができる。

8 投稿された論文等の掲載の可否は、委員会が依頼した査読者の判定をもとに、委員会が決定する。委員会は著者が選択した種類が内容にふさわしいかどうか検討し、場合によっては変更することができる。

(順序)

第5条 論文等の掲載順序は次のとおりとする。

- 一 総説
- 二 論文
- 三 研究ノート
- 四 研究報告
- 五 資料
- 六 その他

2 同一種類内の順序は委員会が決定する。

3 和文縦書きの場合は、逆の見開きから開始する。

(執筆要領)

第6条 論文等の執筆要領は別に定める。

(提出)

第7条 原稿は、電子ファイル及びプリント・アウトしたもの3部（コピー可）を委員会

に提出する。

(別刷)

第8条 別刷50部を執筆者に進呈する。それ以上については執筆者の負担とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、学長が行う。

附 則

1 この規程は、平成23年7月14日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2 平成17年12月12日制定の研究紀要投稿規程は廃止する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年7月11日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

「奈良佐保短期大学研究紀要」執筆要領

制 定：平成17年12月12日

最近改正：平成29年 4月 1日

1 原稿

- (1) 投稿原稿は、A4版の用紙を使用し、以下の要領にしたがって作成する。
- (2) 論文については1920字(40字×48行)で印字したA4版用紙で10枚程度、その他の原稿については同8枚程度を基準とする。なお、カラー原稿は、A4版用紙5枚までとする。
- (3) (2)の規定枚数を超えた場合、その費用は個人負担となる場合がある。
- (4) 投稿原稿の体裁と印刷原稿の体裁は同一とする。

2 形式

- (1) 和文原稿は、原則として横書きとし、上25mm下20mm、左右各30mmの余白を取り、10.5ポイント、40字、48行を1ページとする。
- (2) 欧文原稿は、上25mm下20mm、左右各30mmの余白を取り、10.5ポイントで24行を標準とし、ダブルスペース以上とする。
- (3) 和文、欧文ともに、原稿の第1枚目は表紙とし、各ページ下段余白の中央にページ番号を記入する。
- (4) 本文の書体は、和文は明朝体とし、欧文及び数字はTimes New Romanとする。
- (5) 章・節においては太字のゴシック体とする。
- (6) 横書き原稿の句読点は、原則として「，(コンマ)」と「. (ピリオド)」を使用する。

3 表紙

表紙には、表題・著者名・キーワードを和文及び欧文で記載する。本学教職員以外の著者については所属機関を明記する。

4 要旨及びキーワード

- (1) 論文については、内容を簡潔にまとめた400字程度の和文による要旨を付ける。必要に応じて、200語程度の欧文による要旨を付けることができる。
- (2) 論文、研究報告には、キーワードを5つ程度添える。

5 本文

- (1) 自然科学系の論文は、緒言、実験方法(あるいは実験材料、調査方法など)、実験結果(あるいは調査結果など)、考察、要約、引用文献の区分を設けて記載することが望ましい。
- (2) 人文・社会科学系の論文にあつては、その形式は特に問わない。

6 図および表

- (1) 図および写真、表は、一つごとに電子ファイルを作成する。図は写真とともに図1(Fig. 1)、図2(Fig. 2)のように、表は表1(Table 1)、表2(Table 2)のように通し番号を付ける。いずれも1枚ごとの余白に、著者名を記入する。
- (2) 図表のタイトル・説明は別紙に一覧表としてまとめる。
- (3) 図表の用紙、写真の台紙はA4版とする。
- (4) 図表の大きさや挿入箇所は、原稿内に入れ込むことで指定する。
- (5) 大量の図表及び写真が原稿に含まれる場合、費用は著者負担となる場合がある。

7 注釈

- (1) 本文の該当箇所右肩に 通し番号注1)、注2) を記載する。
- (2) 注釈を付与した場合は、本文の後にまとめて記載する。
- (3) 配列は番号順とする。

8 引用文献

- (1) 本文の中で文献を引用する場合には、注釈の後にまとめて記載する。
- (2) 本文の該当箇所右肩に 通し番号1)、2) を記載する。
- (3) 配列は、番号順とする。

9 参考文献

- (1) 参考文献は、引用文献の後にまとめて記載する。
- (2) 配列は、著者の五十音順とする。
- (3) 見出しを引用・参考文献と記載し、引用文献の後に続けてもよい。その場合は引用文献の通し番号に続けて記載する。

10 引用文献および参考文献の記載例

(1) 雑誌の場合

著者名, 第 2 著者名〈全員分〉:「論文タイトル」,『雑誌名, 欧文の場合は斜体』, 卷(号), p.引用頁(発行年)とする.

- 1) 家政花子, 奈良山佐保:「日本人の生活」,『家政誌』, 46, pp.1300-1310 (1995)
- 2) Teitlebaum, A. and Goldman, R.: Increased Energy Cost with Multiple Clothing Layers, *J. Appl. Physiol.*, 32(6), p.743 (1972)

(2) 単行本の場合

著者名, 訳者名, 編者名など〈略さず全員分〉:『書名:副題(シリーズ名)』, 発行社, p.引用頁(発行年)とする.

- 1) 奈良山佐保, 家政花子:『朝食の時間:小学生の学力との関係(生活習慣大全 1)』 pp.26-34 (2011)
- 2) Gary Phillips and Donald J. Scellato: *Apple Macintosh encyclopedia*, Chapman & Hall, p.121 (1984)

(3) Web サイトの場合

Web 上の情報については, 作成者, ページのタイトル, 該当ページの URL, アクセスした日付の順に記載する.

- 1) 文部科学省:「学校における食育の推進・学校給食」, <http://www.mext.go.jp/sports/syokuiku/index.htm> (2012.2.15)

(4) 文献を再掲載する場合

同一文献を引用する場合は, 最初に掲載した文献番号, 同書(同誌, 同稿)等の記述, 引用頁(発行年)を記載する.

- 1) 奈良山佐保, 家政花子:『朝食の時間:小学生の学力との関係(生活習慣大全 1)』, pp.26-34 (2011)
- 2) Gary Phillips and Donald J. Scellato: *Apple Macintosh encyclopedia*, Chapman & Hall, p.121 (1984)

10) 1) と同書, pp.1-10

附 則

この要領は、平成 17 年 12 月 12 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。